

八戸工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)		授業科目	原子力工学概論A(0951)	
科目基礎情報							
科目番号	0253		科目区分		専門 / 選択		
授業形態	講義		単位の種別と単位数		学修単位: 1		
開設学科	産業システム工学科電気情報工学コース		対象学年		4		
開設期	前期		週時間数		1		
教科書/教材	原子力ー自然に学び、自然を真似るー／藤家洋一／E R C出版、 教員作成プリント						
担当教員	中村 美道,佐藤 学,藤田 邦雄,笹原 順一,植田 真司						
到達目標							
1. 原子と原子核、放射線について理解する。原子核の構造と表記法をマスターする。 2. 核分裂と核融合、原子炉の原理について理解する。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
原子と原子核、放射線、原子核の構造と表記法		原子と原子核の成り立ち、放射線について理解し、原子核の崩壊現象を数式を使って正しく予測できる。		原子と原子核の成り立ち、放射線について理解している。原子核の構造と表記法を正しく理解している。		原子核の崩壊現象が理解できていない。	
核分裂と核融合、原子炉の原理		核分裂と核融合、原子炉の原理について理解し、核反応で生じるエネルギーや、原子炉の冷却に関わる物理量を正しく計算できる。		核分裂と核融合、原子炉の原理について理解し、核反応で生じるエネルギーを求めることができる。		核反応で生じるエネルギーの計算が正しくできない。	
学科の到達目標項目との関係							
DP4 DP5 地域社会への貢献 地域志向 ○							
教育方法等							
概要	【開講学期】春学期週2時間 原子力工学概論A（春学期）とB（夏学期）では、原子力発電や原子燃料サイクルの原理、放射線の特徴、安全について学習し、原子力および原子燃料サイクル技術の基礎となる知識を身に付けることを目標とする。						
授業の進め方・方法	原子力工学概論A（春学期）では、原子核とその結合エネルギー、放射性同位体や放射線の基礎的事項、および下記項目①を学ぶ。なお、原子力工学概論B（夏学期）では、下記項目②③④を学ぶ。 ①原子力発電とその基礎となる、核分裂・核融合、原子炉の原理について学ぶ。 ②原子力発電の詳細とその安全対策について学ぶ。 ③原子燃料サイクルについて学ぶ。 ④放射能と放射線に関する安全対策と規制について学ぶ。						
注意点	原子力工学概論A（春学期）を受講した学生は、引き続き原子力工学概論B（夏学期）も受講することが望ましい。なお、原子力工学概論A（春学期）を受講しない学生は、原子力工学概論B（夏学期）を受講できないので注意すること。 選択者は、原子力に関心を持つ学生であること。また、将来、自分の専門を活かしつつ、原子力に携わることを希望する学生が望ましい。さらに、原子力に関わる卒業研究につなげることが望ましい。						
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	ガイダンス、原子と原子核		空間スケール、質量の観点から原子核について理解する。		
		2週	原子核の構造と表記法		原子核の構造を理解し、表記法をマスターする。		
		3週	原子核の崩壊と放射線、放射能		原子核の崩壊現象を理解する。放射線と放射能の違いを理解する。		
		4週	放射線の計測（放射線測定器の種類と原理）		放射線の計測の基本原則を理解する。		
		5週	原子力工学の概要（原子力発電の意義、原子力発電の展望）		原子力発電の意義、原子力発電の展望について理解する。		
		6週	核分裂・核融合		核分裂と核融合の違いについて理解する。		
		7週	原子炉の原理		原子炉の構造や基本原則を理解する。		
		8週	到達度試験				
	2ndQ	9週					
		10週					
		11週					
		12週					
		13週					
		14週					
		15週					
		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
		到達度試験など			合計		
総合評価割合		100			100		
基礎的能力		0			0		
専門的能力		100			100		
分野横断的能力		0			0		